

西郷隆盛と明治維新影の立役者「横山安武」



横山安武



大円寺



横山安武の墓（大円寺）

旧朝鮮王朝末期に使節として朝鮮を訪問した外務省の役人佐田白茅は、“二個連隊だけで朝鮮を征服できると”露骨に侵略の旨を報告しています。「朝鮮国交際始末内探書」の報告書。



李御寧（韓国
初代文化相）

しかし、わたくしたちが忘れてならないのは、佐田白茅ではなく彼を激しく非難し、朝鮮征伐に反対する建白書を新政府に上程した後、割腹自殺した「横山安武」のような志士がいたという驚くべき事実です。彼は、明治維新を主導した薩摩藩で最も嘱望されていた知識人で、伊藤博文内閣の初代文部大臣を務めた森有礼の実兄でした。

森有礼の父である有恕が文部臣になった森に対して「金之丞が大臣か！正太郎（横山安武）の生きちゃったら」と惜しんでいたと伝えられています。

清日戦争についても同じことが言えます。当時日本の文明開化を先導した「勝海舟」は、アジア侵略に対して反対の声を強めました。「兄弟喧嘩は犬でも食わぬ。日本が勝ったとしても」と否定し、また「中国の五億の民衆は、日本には最大の顧客だよ」と、さながら最近の人のような意見を述べています。韓国については「すでに半亡国であり、貧弱国だとか軽蔑するけれどもおれは朝鮮も既に蘇生の時期が来ていると思うのだ」とはっきり診断して、土木事業などことごとく朝鮮人から教わったことを例に朝鮮が日本人のお師匠様であったことを説いています（『氷川清話』）。韓国人や日本人は、加藤清正は知っていても、征韓論は知っていても、それに反対して諫死した横山安武やアジア侵略に反対した勝海舟と人物がいたという史実はあまり知られていません。お互いに知られていない隠れた多様な史実を明らかにし、ともに歴史の痛みと恥ずかしさを分かち合い、洗い流し、後世の鏡として残す。これが韓日友情年に贈る歴史教科書ではないでしょうか。

「日本人に贈る一枝のしら梅」梅の花の痛みを知っていますか（李 御寧）

明治3年7月27日、鹿児島藩士族 横山正太郎安武、別紙建白書二通封中にて竹に相挿み、昨夜深更のことに候哉、当院門扉へ相添え、差置きこれあり、今朝門番の者より差出候。

父上様・母上様・御祖父様始メ、益々ゴ機嫌ヨク御座遊バサレ恐悦ノ御儀ニ奉存候。サテ私事カギリナキ御鴻恩ヲ蒙リ、御行末迄モ未届ケ、屹ト報イ賜リ度キ存念ニ罷リ在リ候所、君恩重亦重シトスルアリ、恐レ多クモ今日ノ政体日々粉乱シ、仕遇ノ少子譬幾百篇建白スト雖モ、必ズ信ゼラレザル也。故ニ身ヲ尽クシテ寸分ノ有益ヲ願歎ス。就イテハ御老親ニ先立チ幼児ヲ見捨テ、其ノ容ナ不幸不滋ト思召モ御座アルベク候エ共、私ノ実情モ深ク御熟察下サレ、此ノ上ハ、元千代、壮次郎ヲ私ト思召シ、屹ト御用立テ候様御教育ヲ呉々モ奉リ願イ上ゲ候。 恐惶謹言

父上様（向井新兵衛）・父上様（森有恕）・母上（森・横山両家）

伯父上様（宮里治平太、有馬新右衛門）・金之丞様・其の外様

横山安武の諫死に驚いた政府は、祭祀料百両を届けた。異例中の異例の出来事である。

横山安武建白書

- 1、宰相の大任に当たるものを筆頭に閣僚、議員腐敗墮落、おごりたかぶり、ただひたすら天皇政治に媚びてすり寄り、国民大衆の苦しい生活には少しも目を向けていない。
- 2、官僚どもはこれまた上司に見習い、見栄を張っていぼり、やること考えることは名声と利得のことばかり。
- 3、国民大衆はこのような政府の政策に信用できず、どうしてよいか困り切っている。結局自分に都合のよいようにものを考え、自分を信ずるほかはない始末ではないか。
- 4、税金をあげ、献金を強要し、人民の人情を理解しない、之をなんと見る。
- 5、真実の人を重用しないで、世渡りの巧者が出世する。世の中が打算づくめでやりきれない。
- 6、国の仕事のために人を登用するのではなく、役にも立たぬ人のために部署を設置する。仕事に精励するどころか、まったく税金の無駄使いが行われている。
- 7、仕事にかこつけ何かと言えば酒宴に走り、ことの道筋を尊び、人と人の信義を重んじない。ずることがない。
- 8、外国及び外国人に対し理解がない。国際学良識は不足のため条約の仕方が分らない。無用の議論ばかりして少しもラチが明かない。
- 9、無能者は退け、功あるものを昇進させる国の基本的法律を軽視し、人物の好みで人事を司ることいまや日常茶飯事である。春日潜庵のような立派な人が、こうした腐った人事行政下では罪もなく咎められるようなことにもなるのだ。岩倉具視や徳大寺實則のような高位高官の意向か、このような風潮に気付かない情けない。
- 10、上位の者もまた下位のものも、政治にかかわる人々が、拝金思想に足をすくい取られ、国民のことや国家の事を考えていないこのありさまでは、国は滅ぶ、今日只今、政治の掌にある政府高官諸氏は、政治は常に公平正大なものである故十分心して日夜励んでもらいたい。

朝鮮征伐の議建白書

朝鮮を征伐せよの声が国民の間で盛んになっているが、しかしこれは我が国の力が弱いため悲憤にすぎない。戦争にはそれなりの理由がなければならない。まして外国との戦争にはなおのこと諸外国に理解されるだけの正義がなければならないのだ。我が日本国が隆盛で、国力強大ならば何も朝鮮国とて、あえて非礼の擧に出るようなことはないのだ。我が国力も考えず、朝鮮を小国と馬鹿にするこうした国の風潮は情けない限りである。朝鮮のみならず、すでに蝦夷政策もアイヌ人に恨みを買っているのではないか。きけば現在の佐田某の出張は、なにがなんで朝鮮国を掌中に収めるの一点ばり。こうした出張こそ、自分を裏切り、他人を裏切り、政治を遊戯と思っている危険思想でなくてなんであろうぞ。現下の急務は国家の大法を立て、その規律の下、政令を統一し、政治の信頼をまず得て、国民を安心させることである。しばらくの間、こうした騒々しい風潮を絶ち、朝鮮国の非を責めるようなことはしてはならないのだ。アイヌ弾圧政策を糺し、朝鮮人への侮辱を許さぬ開明の人物が、明治の幕開けの時代、一人ここにいた。横山安武は、唯一日本人の良識である。

（西郷と横山安武（清水昭三 彩流社））

横山安武の諫死に衝撃を受けた西郷隆盛は、新政府の腐敗墮落した実態を聞かされ、これでは維新を迎えることなく倒れていった数多くの同志達に面目が立たないと義憤を覚え怒った。明治5年、西郷隆盛は横山安武の碑文を建てた。碑文に横山安武の人物像が漢文で書かれている。

横山安武碑文（西郷隆盛・鹿児島福昌寺）

横山安武・稱（よびな）正太郎 森有恕之四子 母・隈崎氏。出繼横山安容之後為する。人忠実而かも

泛愛衆時親有婉容色之養而も至 君側犯顔言人不能言者皆發 忠愛の心矣（忠愛の心あったぞ） 安武在

君側十余年、排因習革奮幣 且つ欲使 官中為一体論弁不止 其の言一時能行、而して下情上達し、

官府無き間隔者安武の功居多焉。一日英艦来戦に於いて鹿児島人家数百 罹る兵燹安武の家亦逢う 其の

災邦君毎日戸賜金以て救う。其の急、安武以て多年勤勞の功あり特に蒙賞 賜り安武恤れ故人貧苦無き資

給者 乘夜以て賜金竊かに投於其の家 而して出窮 家不知其の故、踊躍以て爲す天神の冥助也。安武の

死後に親戚朋友が檢べ其の日記で始めて知る。安武所為嗚呼為已不某為名不投自発に於いて至誠未聞如し

是人也。安武任近 専ら補導公子（殿様の子弟）孜々（熱心に務め励むさま）不怠以て為す。成長に於いて、

深官恐疎下情切 勸遊学而して、自隨行焉ある故召公子還る。安武また從而して帰藩則被奪その職。

於いて是反身曰く、尚盆勵志以て修徳業耳 再請遊学、始到西京。又去至東京當 此の時、朝廷

百官遊蕩橋奢、而して誤時者多事（事を誤る者多し）。時論囂々。安武乃慨然自奮謂、王家衰弱の機、兆

干此矣苟爲臣子者不可不千思萬慮以て救之然而して、雖も尋常諫疏百口陳之力不能、矯正則無寸益 而し

て、已不如一死以て諫之若有所。感悟あに無小補乎之作諫書陳奮、弊自【その時代の悪習や弊害】十 条

持至（持参する）、集議員挿之門扉退屠腹津軽邸門前（津軽門前に屠腹）。實明治三庚（十千の7番目）午

7月16日夜也。拂曉門吏開門則有、僵臥者以て為すは薩摩人也。告諸藩邸、邸吏至則安武也。扶起入

邸氣息未絶曰く奉書、集議員語僅通乃遣人間之於院答曰、今朝院門有封書上于政府走歸 以其状告、

安武若自得焉者面郎隕、嗚呼以身當難。安武平生之言果下食也。於是乎世感、安武之死諫空論、忽止、

時變、亦以漸而改惜哉。安武以忠實資未能大有為史鑑之尸也。噫

「西郷隆盛文集書」大正12年発刊 日本書籍協会叢書（財）東京大学出版会
平成22年5月9日 大円寺 西郷隆盛に学ぶ「敬天愛人」フォーラム21 代表世話役 内 弘志